



へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
 メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
 ☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター（略称：へき研センター）からのお知らせ

【へき地教育推進フォーラム等の研究交流活動について】

新型コロナウイルス感染症への対応として、へき地教育推進フォーラム等の研究交流活動を実施しておりませんが、地道な研究活動・教育活動は進めています。昨年度旭川校で開催を予定していたへき地教育推進フォーラムも、見通しが立てば再計画いたします。

【へき地校体験実習の意義と役割について】

<日本の少子化・小規模校化とへき地教育の役割>

北海道・東北・中国・四国・九州・沖縄などの地域は、へき地・小規模校が多く、さらにこれらの地域では過疎化が進行しております。今後、これらの地域にも定着して活躍できる教員を送り出していくことが全国的な課題となっております。優秀な人材を過疎地へも輩出していくためには、へき地・小規模校教育を学び、へき地校体験実習等で実践的な力量を培った学生を送り出していくことが、日本の大きな課題となっております。

学生も参加するへき地校の運動会



へき地校のICTを活用した個別最適化教育



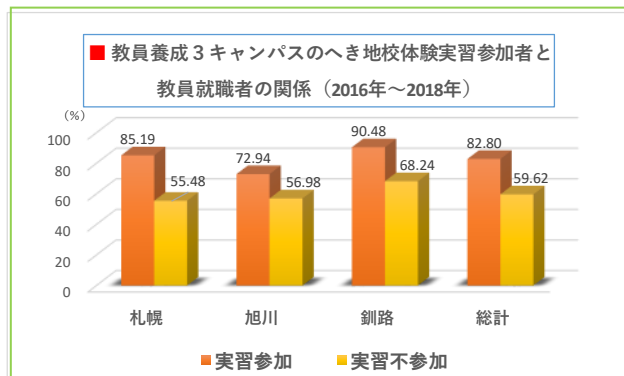
へき地校の地域素材を活かした総合的な学習



<へき地校体験実習に参加した学生の意欲>

例年へき地校体験実習に参加した学生は、少人数の指導経験を活かして、へき地・小規模校に意欲的に赴任し、地域と一体となった学習活動に力を発揮しております。また複数の免許を取得している傾向があり、へき地・小規模校でも幅広くマルチに対応していく力を身につけております。また、全キャンパスともへき地校体験実習に参加した学生は、教職就職率・教員採用試験合格率ともに高い傾向が見られます。（右図：参考グラフ）

参考グラフ



この要因は、元々の意欲の高さに加え、へき地校体験実習の経験が動機づけとなり、教職への意欲につながっていると考えられます。教職への意欲につながる要因としては、以下のような点が考えられております。

教職への意欲につながる要因

1. 子どもに密接に関わり、きめ細かく指導できる教育の喜びを感じ取れること
2. 少人数の方が授業の仕方を工夫しやすく、工夫の成果を実感できやすいこと
3. 地域と一体となった教育活動の経験が、教育の視野を広げること
4. 少人数の教職員の協働的な雰囲気が、職場の雰囲気を魅力的にしていること

このような魅力が学生に感じられると、少々の不安があっても、教職に飛び込んでいこうという意欲も高まってくるのかもしれませんが、子どもとの密接な関係で子どもの成長を保障できる点は、「へき地教育は教育の原点」とも言える所以かもしれません。

へき地校体験実習は、北海道教育大学だけでなく多くの大学で導入し、へき地教育を学んで欲しいと考えております。

へき地校の授業



地域と一体となったへき地校の校外体験学習



道内へき地校の公開授業研究会



【学校現場のへき地教育研究会と連携した実践研究・研究開発】

へき研センターでは、学校や教育委員会と連携した公開研究会や実践研究を進めております。これまでも、全国へき地教育研究大会、北海道へき地複式教育研究大会、各管内へき地教育研究大会、市町村へき地教育研究大会、学校主催へき地教育研究公開研究会など、様々な学校現場の研究大会へも多くの大学教員が参加し、学校と連携しながら、実践的な研究活動を進めてきました。



へき地校の公開授業研究会

北海道教育大学の教員が公開研究会に参加することは、大変歓迎されて

いますので、今後も多くの大学教員に参加して頂ければ幸いです。その中で、学校現場と連携した実践研究・実証研究も進めることができます。できるだけ多くの教員の皆様に、公開研究会等のご案内をさせていただきますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



全道へき地教育研究大会公開授業研究会

【へき地・小規模校教育研究センター紹介リーフレットの活用のお願ひ】

へき研センター紹介リーフレット「全国的な少子化・小規模校化時代の学校の展望」を作成いたしました。近日中に、学生へも配布していきます。また、今後北海道内の学校現場や全国の大学関係者・全国へき地教育研究連盟等へも順次配布する予定です。もし先生方が講演や学校訪問等で学校に訪問する際には、紹介用に持参して頂ければ幸いです。

■リーフレットダウンロード先

https://www.hokkyodai.ac.jp/images/info_topics/00010600/00010676//20200527154521.pdf



【「日本教育大学協会へき地・小規模校教育研究部門」での交流の拡大】

これまでへき地・小規模校教育研究の交流は、北海道教育大学が呼びかけて日本教育大学協会（以下「教大協」という。）の中に「へき地・小規模校教育研究部門」を設立し、教大協の中で交流してきました。昨年度の教大協研究集会（岡山大学）では、「へき地・小規模校教育分科会」の設置を依頼し、北海道教育大学から4報告、全国から15大学のへき地教育報告を行うなど、交流を進めてきました。教大協の部門会員も少しずつ、増えております。

2020年度は、10月10日に愛媛大学で教大協研究集会が開催される予定ですが、7月に発表公募がありますので、今年度も北海道教育大学から多くの研究発表を期待しております。

2019年 教大協へき地・小規模校分科会等での北海道教育大学関係者の報告

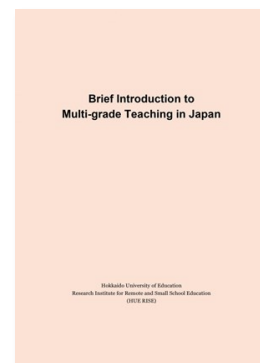


【「日本教育大学協会へき地・小規模校教育部門」に加えて「全国大学へき地・小規模校教育研究会」の創立による情報交流】

この間、教大協以外の国公立大学の教員から、へき地・小規模校教育に関する情報ネットワークがあるとありがたいという声もへき地・小規模校教育研究センターに寄せられておりました。そのため、北海道教育大学が呼びかけ大学となり、教大協に加盟していない大学による「全国大学へき地・小規模校教育研究会」を立ち上げることにしました。人口減少・過疎化・小規模校化は、全国的に進んでおり、それぞれの大学関係者がそれぞれの専門分野の立場で、この人口減少・過疎化・小規模校化の課題に対応していくことが重要になっております。そのため、これらの課題に対する全国のネットワークを創設し、様々なへき地・小規模校教育に関する研究や実践活動の交流を進めていきます。

【へき研センターの国際化に伴い、英語版“Multi-grade Teaching in Japan”を発行しました】

近年アジア・中南米等の海外から、へき研センターへ問い合わせや訪問を頻繁に受けるようになりました。とりわけ開発途上国では、へき地教育が大きな課題となっているため、日本のへき地教育の実践や研究成果から学びたいという希望が強くあります。そのためへき研センターでは、『複式学級における学習指導の手引き』を英訳しております。そのBrief版はすでに完成し、へき研センターのホームページ刊行物欄に掲載しております。
https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/public/duplex_guide.html



【北海道へき地・小規模校教育研究センター 2020年度運営委員メンバー】

2020年度の運営委員は、下記の通りとなります。各キャンパスでへき地校体験実習やへき地教育論講義等に関わって頂いております。

職名等	氏名	所属
センター長	玉井 康之	
副センター長	川前 あゆみ	釧路校
センター員	○池田 考司	札幌校
	花輪 大輔	
	◎前田 賢次	
	萬谷 隆一	
	○渥美 伸彦	
	笠原 究	旭川校
	勝本 敦洋	
	◎坂井 誠亮	
	芳賀 均	
	水上 丈実	
	谷地元 直樹	釧路校
	小渕 隆司	
	榑澤 実	
	○越川 茂樹	
	◎境 智洋	
戸田 竜也		
半澤 礼之		
森 健一郎		

※ ◎キャンパス代表 ○キャンパス副代表

職名等	氏名	所属
センター員	◎阿部 二郎	函館校
	石井 洋	
	○小松 一保	
	坂本 紀子	
	山口 好和	
◎能條 歩	岩見沢校	
へき地教育アドバイザー	加藤 雅子	札幌校
	田中 和敏	旭川校
	吉田 亨	釧路校
釧路校キャンパス長	浅利 祐一	釧路校
運営協力委員 〔キャンパス長〕	田口 哲	札幌校
	千葉 胤久	旭川校
	五十嵐 靖夫	函館校
担当事務	鹿嶋 利幸	釧路校室
	堀北 昌宏	地域連携推進室
	酒井 義信	釧路校室総務G
	白川 聡美	釧路校室総務G

お知らせ

全国へき地教育研究大会富山大会の対面式の中止と紙面発表会の方法

昨年度より全国へき地教育研究連盟とへき研センターは、研究交流を進めてきました。本年度は富山で全国へき地教育研究大会が開催される予定でしたが、全国へき地教育研究連盟より連絡があり、本年度は紙面発表大会とし、参集型大会は実施しない旨の連絡がありました。